

たつた一人の予と今一は

原田一 そろいえは今のうなぎの日ぬ

倉手会どろすは さいん 合でうと取めた者

さから ころろとしつ中止 ころね

原田二 足の紫つやろ つやろ つやだり

つやろおつ取ります そろ考を言うて

三はは私の血水虫のことだ

下ろ言う通りにする 同結

下ろの管向終りだ

自らの考えを我言するのた 転つかしこの

だ

原田一は ほうきとこいさ しんその人

内原おまの 自分だ イエト しこいかわら

参加おまの だ どりそ 奇才つアア

がすい

原田二は 自分ろ考えが 原の そのほ かわら

原と とい言り原の 二はだう少なりといろ

もろかと思子

日々ハキハキしい人でも 輪何のきりし

ろろのほ 自分ろ考えを もろ原の まろたしついろ

表 致することもしずい のかもし小ぢい

私自身 反省するにもしずい

元は石をたけつきり言少くせがある

もろろん その場を考えてのこと

わかろうずい 帰れわかろうずいと言ふ

若いのにはもうずいかと考えてしずい

人それそれの経路をもしずいか ずうずう

しずい

一姓に若い人けずいいうずい 家いずずい

恋人いずずい といちれついで

いづい 何かすいいのだろ

空同に答えてくたは人も 何を手につれたい

が不明に

同じすうすうに 毎日印いすい